

P2-008

乳幼児の父親・母親の生活環境満足度に
影響する地域感要因

増田 貴人¹、深作 拓郎¹、古川 照美²

¹弘前大学、
²青森県立保健大学

【目的】

育児問題や児童虐待の増加の背景に、地域コミュニティの衰退が指摘されている。子育てにおける地域コミュニティの役割は大きく、地域活性化につながる対策が必要である。本研究では、地域で生活する育児者の生活環境に関する満足度と地域への意識（地域感）の関連について検討し、地域活性化につながる新たな子育て支援対策に示唆を得ることを目的とした。

【方法】

2013年から2014年にかけて、3自治体の乳幼児のいる世帯に対し無記名自記式質問紙調査を行った。調査内容は、年齢、配偶者の有無、学歴、職業、子ども人数、出身、居住年数、生活環境満足度、地域感に関する項目であった。データ欠損のない父親493名、母親589名の計1,082名を分析対象とした。生活環境満足度と地域感項目の構成を明らかにするために、因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行い、生活環境満足度は2因子、地域感は3因子抽出された。その後、各因子と属性の関連を検討し、さらに、有意差が認められた変数を共変量とし、生活環境満足度2因子に影響する地域感について重回帰分析を実施した。なお本研究は倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

因子分析の結果、生活環境満足度の第1因子を「外的環境満足度」、第2因子を「内的環境満足度」とした。また、地域感の第1因子を「環境選好」、第2因子を「好意的感情」、第3因子を「オーナー感」とした。地域感の「好意的感情」、「オーナー感」は有意に父親が高く、出身者はいずれの項目も有意に高値であった。また、居住年数が長い群（20年以上）は、「内的環境満足度」以外のすべての項目が高値であった。職業なし、および子ども1人が「内的環境満足度」が高く、学歴では有意差は認められなかった。重回帰分析の結果、父親の場合、外的環境満足度では地域感の「環境選好」、「好意的感情」が正の影響要因であった。内的環境満足度ではすべての因子が正の影響要因であった。母親の場合、外的環境満足度、内的環境満足度ともに、すべての因子が正の影響要因であった。

【考察】

地域の出身であることや居住年数の長さの影響を除いても、乳幼児の父親・母親の生活環境満足度に、地域感が影響していることが示唆された。父親母親ともに、個人要因である内的環境満足度に地域感のすべての因子の関連が認められたことから、地域感を高めるような地域づくりが必要と思われた。

P2-009

乳幼児の父親・母親の地域感と社会参加
意欲の関連

古川 照美¹、増田 貴人²、深作 拓郎²

¹青森県立保健大学、
²弘前大学

【目的】

子育てにおける地域コミュニティの役割は大きく、地域活性化につながる対策が必要である。よりよい育児環境を築くためには、親世代が地域に愛着を持ち、地域における育児支援を主体的に実践していく必要がある。本研究では、地域活性化につながる新たな子育て支援施策に示唆を得ることを目的に、育児者の社会参加意欲と地域への意識（地域感）の関連について検討した。

【方法】

2013年から2014年にかけて、3自治体の乳幼児のいる世帯に対し無記名自記式質問紙調査を行った。調査内容は、年齢、配偶者の有無、学歴、職業、子ども人数、出身、居住年数、地域感に関する項目および社会参加意欲に関する項目であった。データ欠損のない父親489名、母親589名の計1,078名を分析対象とした。地域感項目と社会参加意欲の構成を明らかにするために、因子分析（主因子法、プロマックス回転）を行い、地域感、社会参加意欲ともに3因子抽出された。その後、各因子と属性の関連を検討し、さらに、有意差が認められた変数を共変量とし、社会参加意欲因子における地域感への影響程度、地域感因子における社会参加意欲への影響程度について重回帰分析を実施した。なお本研究は倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

因子分析の結果、地域感の第1因子を「環境選好」、第2因子を「好意的感情」、第3因子を「オーナー感」とした。また、社会参加意欲の第1因子を「コミュニティ活動」、第2因子を「交流」、第3因子を「地域への関心」とした。地域感について、父親、職業あり、出身者、20年以上の居住者で有意に高かった。社会参加意欲では、職業あり、子どもが3人以上、出身者、20年以上の居住者で有意に高かった。重回帰分析の結果、父親の場合、社会参加意欲と「オーナー感」、「環境選好」に正の関連があり、母親では、すべての因子に正の関連が認められた。さらに父親では地域感と「交流」、「地域への関心」、「コミュニティ活動」の順に、母親では「交流」、「コミュニティ活動」、「地域への関心」の順に正の関連が認められた。

【考察】

地域の出身であることや居住年数の長さの影響を考慮してもなお、社会参加意欲と地域感の関連が認められ、地域が自分のまちであるといった「オーナー感」を高めるような取り組みと、近所の人々とのあいさつや会話といった「交流」が、地域感を高める可能性が示唆された。